

京都の福祉

シェアセ運ぶ情報誌

563
2017年
7月

Contents

- 京都府社会福祉協議会 事業報告・決算
- ひとりの小さな困りごとから
地域のつながりを結びなおす

災害にも強いまちづくりを目指して
夢中！ 熱中！ ふくしびと



もくろ

「現状維持には想像力は要らない。」ある法学者の言葉である。現状を当然のこととして保守する限りでは「想像力」をはたらかせる必要はなく、「現状」は「原状」のままとなるという。政府は「地域共生社会」のビジョンを示している。人口減少社会が進み、地域のつながりが希薄化している今日、地域住民による主体的な地域づくりへの参加と、市町村の相談支援体制の構築を目指している。孤立を防止し、人間同士のつながりの回復を図る地域づくりの必要性を疑う者はおそらく誰も居ないであろう。「地域共生」には人の尊厳を保持する根源的な意味もある。しかし、共生社会を実現する確信や手応えはあるのか。「想像力」を十分に働かせているビジョンなのだろうか。たしかに、住民に身近な生活圏域や市町村で相談支援の体制ができるのは望ましいけれども、すべての市町村で財政面や専門的な人材確保などの観点からワンストップ体制を整備する体力があるのだろうか。また、住民同士の「自然な支え合い」は生きるうえでの精神的な豊かさを高める。だがそれは人々の最低生活の保障が確実に行われ、福祉・医療・教育・住宅などの社会サービスの充実が前提ではないのか。土台なくして住民同士の支え合いを強調するのならこれまでの政策とあまり変わらない。▼「地域共生社会」の実現は、住民同士が支え合う地域づくりの推進とあわせて、誰もが豊かに生活できる権利の保障として、改めて国や自治体の役割、責任を明確にすることが必要である。まずは、市町村、地域で起きている当事者の生活問題や社会状況の把握に努め、地域住民の多様な意見を十分に聴くことからスタートさせるべきではないだろうか。

Ｔ・Ｓ

平成28年度 事業報告・決算

「第4次中期計画（平成27年度～31年度）」の5つの柱にそって平成28年度の主な重点事業の実施状況を報告します。

1 「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進

- ①生活に困窮する人の自立支援
 - 子どもの貧困への対応
 - ・生活福祉資金（教育支援資金）の貸付 1785件
 - ・わっかプロジェクト（京都地域福祉創生事業）による子どもの居場所づくり
 - ・児童養護施設を退所した子ども等への貸付 15件
 - 低所得世帯への支援
 - ・生活福祉資金の貸付（教育支援資金を除く） 437件
 - ・生活福祉資金の償還相談支援の実施
 - ・償還実績 5億8847万45円、現年度償還率73・4%
 - ・ひとり親家庭の親の高等職業訓練に対する支援（貸付） 138件
- ②判断能力に不安のある人への支援
 - 地域福祉権利擁護事業による支援新規利用者183人（前年比0・
- ③絆ネットと福祉のまちづくり
 - 絆ネットづくり
 - ・地域（住民）や商店・事業所等による重層的な声かけ・見守り府内17市町村でネットワークづくりを実施
 - ・地域における見守り活動への助成 414団体996万8800円
 - ・きょうと地域福祉実践交流会の実施
 - 社会的包摂を目指す福祉教育の展開
 - ・福祉に関心をもち、参加しやすい仕組みづくり
 - ・ボランティア入りロジックデザインプロジェクトの開催

- 社協コミュニティワーク実践研究会の開催
- ④社会的孤立を防ぐ新たな仕組みづくり
 - 京都版「ささえあい」の「地域後見」
 - ・検討委員会を設置し、平成29年3月に報告書「京都版「ささえあい」の「地域後見」に向けて」を発行
 - 生活困窮社会における地域づくり研究会の開催
 - ・準備会及び府民公開型の研究会を3回実施（のべ363名が参加）

2 社会福祉法人の連携・協働の促進と福祉サービスの質の向上

- ①社会福祉法人制度改革への対応
 - ・市町村社協を対象とした「社会福祉法人制度改革の施行に向けた対応説明会」を開催
 - ・経営協との協働によるセミナー、研修会を開催
- ②わっかプロジェクト（京都地域福祉創生事業）
 - ・参画法人22法人（前年度比4法人増加）
- ③福祉サービス利用者の権利擁護
 - ④京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構との連携
 - ・介護サービス分野212件、福祉サービス分野95件の評価を実施
- ③福祉・介護人材の確保・定着・育成のための総合的な事業の推進
 - ①福祉人材マッチング事業（無料職業紹介事業）の取り組み
 - ・新規求職者2745人（前年度比1・2%減少）、内定者329人（前年度比8・4%減少）
 - ②就職フェアの開催
 - ・全域2回（6月・3月）
 - ・地域・南部1回開催
 - ③きょうと介護・福祉ジョブネットの運営（事務局分）
 - ・幹事会の開催（1回）
 - ・協働戦略検討チーム（3回）

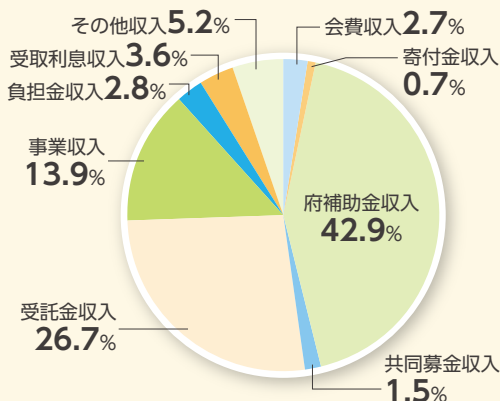
平成28年度 一般会計決算の概要

一般会計 実質収支のまとめ

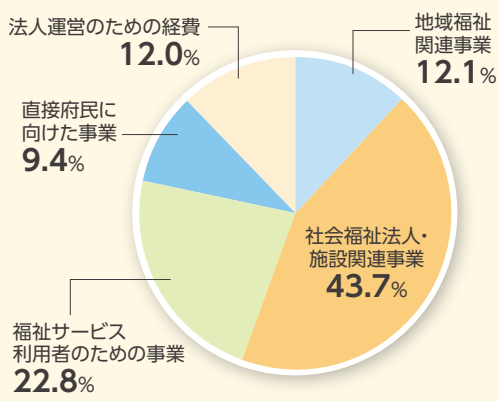
(単位：円)

	予算額	決算額	差異
事業収入	549,670,000	550,303,020	△633,020
事業支出	508,325,000	505,803,305	2,521,695
事業収支差額	41,345,000	44,499,715	△3,154,715
その他の収入	120,000	75,440	44,560
その他の支出	36,643,000	36,305,803	337,197
その他の収支差額	△36,523,000	△36,230,363	△292,637
当期収支差額	4,822,000	8,269,352	△3,447,352

収入内訳



支出内訳



- ④資格取得・就職を支援する貸付事業
 - ・取り組み課題の検討
 - ・仕事理解促進チーム（8回）
 - ・小中学生向け、高校生向け、小・中・高校教員向け事業の実施等

業（平成28年度から就職関連6貸付事業新設）

- ・介護福祉士修学資金等貸付事業 39件
- ・保育士修学資金等貸付事業 34件

4 「防災・減災のまちづくり」と「被災者・被災地の思いに添った災害支援活動」の推進

- ①熊本・鳥取における大地震への対応
 - ・災害ボランティアセンター・被災地社協への支援
 - ・緊急小口資金特別貸付の受付・相談支援、被災地社協への支援
 - ・京都府災害ボランティアセンター
- ②連携・協働の場としての常設型災害ボランティアセンターの設置
 - ・タートとの協働による資機材提供、ボランティアバスの運行
 - ・京都府災害時要配慮者支援センターとの協働による京都DWA Tの派遣

5 幅広い協働による事業の展開

- ①広域の中間支援団体として多様な機関との協働による取り組み
 - ・京都府民生児童委員協議会、京都府共同募金会をはじめ、社会福祉関係団体との連携強化
- ②機関紙「京都の福祉」による府内の福祉活動の発信



◀「一緒に」活動中の好子さん(左)と文子さん(右)

ひとりの小さな
困りごとから

地域のつながりを結びなおす

京丹波町社協における「住民寄り添い型助け合い活動「かがやき」」の取り組み

◆小さな困りごと お風呂掃除がしたい

京丹波町で暮らす藤田好子さん。夫を亡くされた後は一人暮らしですが、町内のサロンの世話役を長年務めるなど、おもてなしが大好き。現在もお菓子やパンなどを作って、地域の人にふるまいます。そんな好子さんから、「お風呂の天井のカビを綺麗にしたい」という相談が、京丹波町社協の山崎さんのもとに



◆「一緒にする」というポリシー

この日、好子さんの困りごとのために参加してくれた活動者は、近くの集落にお住まいの藤田文子さんでした。好子さんは手の届く範囲のお風呂掃除、活動者の藤田さんは壁や天井のカビ掃除を行うことに。「文子さんごめんなあ」「そんなこと言わないと。好子さん一人暮らしやは大変やもんなあ」という会話をしながら「一緒に」するお風呂掃除は、和気あいあいとした雰囲気が進みます。活動が終わる、久方ぶりにきれいになったお風呂を見て、好子さんの達成感もひとしお。「みんなお風呂で汗ながしていつてや」という言葉に感謝と喜びが溢れます。自分自身もできることは取り組み、届かないところはお手伝いしてもらう。「やってもらう」ではなく「自分もやる」という「かがやき」の「一緒にする」というポリシーが、単に困りごとの解決だけでなく、困りごとを抱えていた人の意欲の向上や自立促進にもつながっています。

◆誰でも「助けて」が言える窓口として

「かがやき」の活動は、対象者を限定しないということをとっても大切にしています。ちよっとした困りごとがあれば老若男女「だれでも」声を上げることができるようになることで、地域の方の拠り所になることを目指しています。

「以前、介護保険制度を利用している方で、専門職が出入りすることで、地域の方との関係が薄れてしまっていたことがあった」と山崎さんは言います。そ

◆お互いさまの心で助け合う「かがやき」の取り組み

京丹波町社協では、平成28年4月から「住民寄り添い型助け合い活動「かがやき」」の取り組みを開始しました。この活動は、暮らしの中のちょっとした困りごとに寄り添い、依頼者と活動者が一緒に解決する活動です。町内在住で、何らかの困りごとを抱えている方なら誰でも相談することができ、利用料は1時間300円です。

この「かがやき」の活動の醍醐味の1つは、依頼者と活動者が困りごとの解決に向けて「一緒に」取り組むということ。困っ

ている本人が、困りごとを解決する「主体者」であることを大切にしています。だからこそ、相談があった際にはまず社協担当者がご自宅に訪問し、直接困りごとを見聞きし、「かがやき」の活動にマッチするかどうかの判断を丁寧に行っています。

そして、「かがやき」でお手伝いできる場合には、あらかじめ登録されている活動者の方になぎます。その際には、地域のつながりを意識して、出来る限り依頼者の近くにお住まいの方をお願いします。



▲京丹波町社協の山崎さん(左)と活動内容について確認する好子さん(右)

◆「かがやき」の活動から見えてきたこと

が分かり、利用者からは「ほんまは(地域のひと)話したいんや」という本音も聞こえてきました。

制度の対象内、外と分け隔てるのではなく、なんでも相談し

て」という姿勢が、「かがやき」でのお手伝いをきっかけに、地域のひととの縁を結びなおし、遠慮なく行き来できる関係へとつながりました。

様々な人の「困りごと」に接する中で、「困りごと」と一口に言っても、その背景には様々な事情があることが見えてきました。一つは、本当に「ちょっとした」困りごととは頼みにくいということ。二つ目は、元気に暮らしておられる方でも困っていることがあること。三つ目は、近所同士の助け合いには、良さもあれば辛さもある、ということ。

地域に暮らす人の声に寄り添い、地域の人の助け合いをつむいでいく取り組みが今後ますます広がりをみせることで、「つながり」とおして、だれもが尊厳をもって生きることができる京都」の実現を目指して、本会としても、今後も各地域の様々な取り組みに注目していきたいと思っています。

「かがやき」が目指すのは、そんな「困りごと」に「一緒に」向き合うべく手を差し伸べ、その方の自立を促し、生きがいのある暮らしを応援すること。そして、そんな活動を通して、住民同士の支え合いをそつと後押しし、京丹波町が「お互いさまの心で助け合うまち」となることを目指して、今日も「ちょっとした困りごと」に応え続けています。



▲お風呂掃除のあと、好子さんお手製のワッフルを囲んで



だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

芦田 真美さん アシダ マミ

施設名 高齢者総合福祉施設 神の園
〒619-0243 京都府相楽郡精華町
南稲八妻笹竹41番地
HP/URL : <http://kami-home.jp/>
TEL 0774-94-4125 **FAX** 0774-93-2305
職種 : 介護職員
経験年数 : 4年(平成29年4月現在)
★好きな言葉 : ご飯おかわり自由
★夢中になっている事 : フラメンコ



“あんたがいたらほっとする”と 思っていただけの存在をめざして

★**仕事を始めたきっかけは?**
大学時代に身内の中で介護が必要となり、ヘルパーさんに来て頂いた時期がありました。家族ではないのに本当に助けてもらえた事に感謝し、介護は身内だけでなくこんなにも安心できて温かきがある仕事なんだと、魅力を感じたのがきっかけです。

★**仕事の内容とやりがいは?**
食事・入浴・排泄などの身体介助、生活面でのお手伝いをしていきます。入居者さんお一人お一人の暮らしをその人らしいものにするために、関係職種と連携し入居者さんの望む暮らしの実現に努めています。なかなか思いを伺うことが難しい入居者さんもうらっしゃいますが、試行錯誤しながら関わっていく中で、笑顔を見せてくださる瞬間があったり、「あんたがいてくれたら安心やわー」と言ってくることがあり、入居者さんの笑顔や言葉が私のやりがいに繋がっています。

一番身近にいる立場として、近くにいるとほっとする存在であり続けたい、そのために入居者さんお一人お一人と関わる時間を大切にしています。入居者さんから頂けるたくさんの笑顔に元気をもら



い、私も笑顔で働くことができています。感謝しています。

★**プライベートの過ごし方は?**
最近引越をしました。新しい街にはどのような楽しいスポットがあるのかを見つけるために、散歩へ出かけるのですが、よく道に迷っています。今は美味しいごはん屋さんを見つけることが楽しみです。

★**今後の目標(抱負)は?**
身内の介護でヘルパーさんに助けて頂いた経験もあり、入居者さんだけでなくご家族にも安心して任せて頂けるよう頑張りたいです。一緒に住めなくなっても神の園に来ると家族の大切な時間をゆっくり過ごせるような環境をつくっていければと思います。

災害にも強い まちづくりを目指して

災害ボランティアセンター設置・運用ポイント集

誰のための災害ボランティアセンター

近年、全国各地で大規模な災害が発生しており、京都でもここ数年、災害に見舞われています。京都府災害ボランティアセンターは、発災のたびに被災地の状況を把握し、必要な支援について協議を行いながら、活動を展開してきました。

こうした動きの中で「真に被災者を中心に据えたセンターであるべき」「復興後も見据えた被災者の生活支援という視点」の重要性を指摘する声を受け、平成17年に

作成した「現地災害ボランティアセンターの円滑な立ち上げ・運用ポイント」を改訂し、本冊子を作成しました。

本冊子は、これまで積み上げてきた被災地支援の経験をもとに、平常時から復興期までのカテゴリ別に紹介し、自らの取り組みをチェックできるようになっています。



1 「平常時」 災害にも強い まちづくりを進める!



自分の住むまち、地域がどのようなまちなのかを知ることから備えが始まります。多角的に地域を見て、足りないところを補い、足りているところは高めていくことが災害への備えとなります。

2 「警戒期」 情報を収集・発信し、 目前の災害に備える!



災害の危険性が予測できる場合、関係者間で連絡を取り合い、いざという時の対応を確認します。この段階で発災した場合を想定して、情報収集・発信、具体的な対応についての準備や協議をしておくことが重要です。

3 「立ち上げ期」 センターの立ち上げ判断 から運営ルールの構築!



被害の状況を確認し、災害ボランティアセンター(災害VC)を立ち上げるか判断をします。災害時の災害VCの動向について注目されるようになってきています。意識的に情報発信・収集していくことが大切です。

4 「復旧期」 被災者の想いに沿った 災害VCの運営を スタート!



災害VCの運営スタッフには、被災された方とボランティアとの間に立ち、住民のニーズを出発点に活動を展開することが求められます。

5 「生活支援期」 多様なニーズへの 対応を目指す!



早い段階で元通りの暮らしを取り戻せた人もいれば、災害によって生きづらさが増してしまう人もいます。長期的かつ一人ひとりに寄り添った支援を行っていくためには、地元の団体や住民が中心となる支援体制を目指す必要があります。

6 「復興期」 復興のまちづくりへ つないでいく!



災害VCが平常時体制へ移行、もしくは閉所されても災害復興への取り組みは続いていきます。災害VCの運営に関わっていた関係機関・団体も従来の役割の中で、引き続きまちの復興支援にあたります。

普段取り組めていないことは、いざという時にも取り組めないものです。普段のまちづくりの「なか」に防災・減災の視点を入れて、平常時から繋がりやネットワークを「地域の力」として積み重ねていくことで、災害にも

強いまちづくりへとつながります。

災害はいつ、どこで発生するか予測できませんが、いざという時に備えることはできます。皆さんの地域での備えづくり、ぜひ本冊子をご活用ください。

冊子は次のホームページよりダウンロードできます。<http://fu-saigai-v.jp/guide/>
問合せ先：京都府災害ボランティアセンター事務局 TEL. 075 - 254 - 8815

京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

寄付

ご寄付ありがとうございました

平成29年3月21日に「京滋ヤクルト販売株式会社」様より200,000円をご寄付いただきました。

ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

ありがとうございました。



ご寄付ありがとうございました

平成29年4月5日に「公益財団法人京遊連社会福祉基金」様より1,000,000円をご寄付いただきました。

ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

ありがとうございました。



案内

第20回（平成29年度）京都府介護支援専門員実務研修受講試験についてのお知らせ

【試験日・会場】

- 日時 平成29年10月8日（日）
10:00～12:00
- 会場 立命館大学 衣笠キャンパス
又は 同志社大学 京田辺キャンパス

【試験案内（申込書）の配布】

- 6月2日（金）から7月18日（火）まで
- 市区町村役場（介護保険担当課）、府広域振興局、保健所等で配布

【受験申込受付期間】

- 7月3日（月）から7月18日（火）まで
- 所定の封筒を使用した「簡易書留」での郵送による申込みのみ
- 7月18日（火）の消印まで有効

【受験手数料】

- 7,700円

【問い合わせ先】

京都府社会福祉協議会 介護支援専門員実務研修受講試験室
TEL.075-254-3844（土曜・日曜・祝日を除く午前9時から午後5時まで）

平成29年度 介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修受講試験のための受験対策講座のお知らせ

- 日程 7月23日（日）、7月30日（日）、8月12日（土）、9月3日（日）
- 時間 10:00～16:30
- 会場 7月23日、7月30日、8月12日：ラポール京都 2階「大ホール」
9月3日：京都市内（受講決定時にお知らせします。）

- 受講料 32,000円（4日間分）
- 指導講師 伊東利洋氏
（有）いとう総研 取締役
- テキスト ケアマネジャー試験確実合格指南書17年版

開催要綱は、市区町村役場（介護保険担当課）、ハートピア京都等で配布しているほか、ホームページからもダウンロード可能です。

※詳しくは、下記までお問い合わせください。

京都府福祉人材・研修センター研修課
TEL.075-252-6296
<http://www.kyoshakyo.or.jp/event/>

社会福祉士受験対策セミナーのお知らせ

- 日時 10月21日（土）、11月11日（土）、12月10日（日）
- 時間 10:00～16:30
- 会場 10月21日、11月11日：京都光華女子大学
12月10日：京都市内（受講決定時にお知らせします。）
- 受講料 24,000円（3日間分）
- 指導講師 伊東利洋氏
（有）いとう総研 取締役
- テキスト 見て覚える！社会福祉士国試ナビ2018

ホームページからお申込みいただけます。
※詳しくは、下記までお問い合わせください。

京都府福祉人材・研修センター研修課
TEL.075-252-6296
<http://www.kyoshakyo.or.jp/event/>

- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度

「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-822-8613**

福祉の保険ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。